



西覚寺だより

第二十六号

永代経法要のご案内

● 日にち 四月 二十五日 (木)

● 午前の部 午前十時半 ～ 正午頃
● 午後の部 午後一時半～午後三時半頃

※「お斎」はありません。

● 内容 正信偈(行譜) 六首引き

- ※行譜はいつもと違う特別な読み方
- 左側の指示に合わせて読みます
- 御法話

● 法話 小山 興圓 師

真宗大谷派(お東さん)
安城市 野寺本證寺 住職

● 永代経法要とは

永代経法要とは、亡き人を偲びつつ、その亡き人やみなさんと縁あるお寺(西覚寺)の永代護持、そして、亡き人をお救いくださった阿弥陀様の教え、その教えの道場であるお寺(西覚寺)が、永代に渡り護持されることを願う法要です。

● 持ち物

お念珠、門徒式章(お持ちの方)、経本、御仏前(受付にお渡し下さい)

どなた様も、みなさま、

ぜひお参り下さい!!



お近くにお寺でお困りの方、お寺をお探しの方いらっしゃいましたら、どうぞご紹介ください



● ご門徒のみなさまとお話していると、中にはこんなお話が聞かれます。

「近所(安城市内)に同じ西本願寺の方がみえるけど、お葬儀のときに紹介されたお寺さんが市外(西尾や刈谷など)のお寺さんだったみたい。」

● 時には、電話や直接お尋ねくださった方のご相談で、「葬儀の時に紹介で来られたお寺さんが岐阜(や三重や名古屋)のお寺で、今後付き合っていくには遠くて困っている。」なぜこのようなことになるのでしょうか。

● たとえば、ネット上の業者(○さなお葬式や○りそうお葬式)や、フランチャイズの業者さんの中にも、お葬儀の際に新規のお客様をお寺に紹介するには、お寺とその業者さんの間で「契約・提携」することを求められます。その契約をしていないお寺には、どんなに御他家のお宅がお寺に近くても決して紹介しません。

● では、すべての業者さんと契約すればいいのか。まず、「契約」となると、そこには「お布施」の意義をなくす内容が含まれます。お布施が業者さんに指定されたサービス料と化し、そしてそのサービス料から手数料が引かれます。

● また、契約したとしても、もれなく市内や近くの方は紹介してもらえるかというと、そうでもありません。契約しているお寺の中で紹介の優先順位があるそうです。業者さんが指定した日時・場所をそのまま受けてくれるお寺が優先順位が高くなるそうです。先述したとおり、安城へも県外から来られていますので、逆に西覚寺が契約した場合も、県外への要請があるということになります。

● 問題はここです。県外への要請をその通りに受けていたら、昔からお世話になっているご門徒の皆様は確実にご迷惑をかけることになりそうです。それはダメです。本末転倒です。そもそも、お葬儀以降のお付き合いのことを考えると、そんな無責任なことには私はできません。そして断ると、全体での優先順位が下がり、市内でも要請されなくなりそうです。なんと無意味なことでしょうか。

● そんなこんなで、もしご近所さん、ご友人、御親戚など、お寺が遠方ですらしたのか、遠方というのもあると相談しにくい、(そもそも契約上葬儀をしただけでそれ以外あまりかわりたくない為、)僧侶が興味をしめしてくれなくて相談しにくい、などお困りの方がいらしたら、どうぞお気軽に私にご相談・ご紹介ください。丁寧に対応させて頂きます。

花まつり のご案内

● 日にち 5月25日(土)

● 時間 午前10時 ～ 午後4時頃まで

☆ 「花まつり」は、お釈迦様のお誕生をお祝いする、昔から日本で営まれているイベントのことです。

「花御堂」の中の小さなお釈迦様に「甘茶」をかけてお祝いします。

☆ 甘茶も飲んでもらえるようにお菓子と一緒にご用意してお待ちしています。

☆ そのほかには

☆ 午前はビンゴ

☆ 午後は写経体験(一回500円)

☆ 当日は安城駅前では

「ホコ天きーぼー市(歩行者天国)」が開催されていて、いろいろなお店やキッチンカーが出店されていますので、思いますので、ぜひ足をはこんでみてください！お待ちしております！



初参式



西覚寺では、新年度が落ちつき、気候も暖かくなる6月に、『初参式並びに入学祝いの会』を開催しています。毎年、お子様お孫様を連れて、数組のご家族がご参加くださいます。

みなさま、七五三などと同じひとつの節目、お祝いの行事として、ぜひご参加ください!!

▽開催日時

6月2日(日)

14時～15時

▽定員

受式者(子ども) 12名まで

※同伴の大人は、こども一人につき2名ほど

※要予約です!

▽参加費

2000円/名

▽場所

西覚寺本堂

▽記念品

参拝の記念に、小学生には門徒式章と子ども用の経本
未就学の子には、お念珠と子ども用の経本

▽予約方法

先月の西覚寺だよりと同封した申込書をFAXもしくは、直接お寺までお電話ください。

◆ 住職の一言コーナー ◆

先月頃から、下の息子のいわゆる「かんしゃく」が強くなってきました。ふと思えば返して、上の娘がどうだったかすら、すでに思い出せない悲しい事実は横に置いておいて、印象に残っていないという事は、そこまで強いかんしゃくではなかったのだろうと思うことにします。

「かんしゃく」がおきるということは、もちろん親としては大変な思いが増えることでもあります。が、子どもに自分の意志が芽生え始めた、よく言う「自我の目覚め」なのだろうと、子の成長を嬉しく感じます。

一方で、親としての責任を強く感じることもあります。仏教では、「諸法無我」といいます。すべてのものがらにおいて、一切変わらず、決して消えることのない、そのもの固有の「何か」なんてない、ということなのです。

つまり、息子の自我は、生まれる前から確固たるものがあるわけではなく、まわりのものに影響を受けながら、これからゆっくり形成されていくのです。一番近くにいます私たちが、息子の自我に最も強く影響を与えることになるのですから。



浄土真宗本願寺派
西覚寺

安城市朝日町12-8

0566-76-3594

<http://saikakuji.sakurane.jp/wp/>